

(様式第4号)

第2回上田左岸地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田左岸地域協議会
2 日時	令和5年5月18日 午前10時00分から
3 会場	城南公民館 大ホール
4 出席者	赤堀委員、浅川委員、小林委員、小山委員、田中委員、田村委員、富田委員、西入委員、羽田委員、樋口委員、松田委員、宮坂委員、宮崎委員、宮下委員、安江委員、柳澤委員、山岸委員、山田委員、和田委員
5 市側出席者	【事務局】滝澤城南地域振興政策幹、間宮塩田地域自治センター長、藤沢川西地域自治センター長、遠藤地域振興政策幹、大森地域振興政策幹、竹花課長補佐兼地域内分権推進担当係長、滝澤地域内分権推進担当主査、城下地域内分権推進担当主査、清水地域内分権推進担当主任、芳池地域内分権推進担当主事 【観光シティプロモーション課】佐藤課長、清水課長補佐兼観光政策担当係長、中沢観光政策担当主任
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 2人
8 会議概要作成年月日	令和5年5月23日

協議事項等

次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項

(1) 上田市塩田の館の有効活用について

観光シティプロモーション課から資料を基に説明

以下、質疑応答

(委員)昨年に上田左岸地域協議会で視察をさせていただいたが、地元に住んでいながら存在を知らなかった。

活用の方向性はよいのではないか。

私の住んでいる五加は、上田市と姉妹都市である鎌倉市から小中学生約20名が夏休みに一週間程図工教室で訪れており、自治会館に寝泊まりしている。大変すばらしい取組かと思うが、民間に委託してからも行政として子どもたちの往来を考えていただきたい。

(観光シティプロモーション課)行政もただ手放すことは考えておらず、三者一体となって検討していきたい。日本遺産ビジターセンターとしての機能も入れていくことを考えており、子どもたちとの交流も図っていければよい。詳しいことは今後詰めていくことになるが、貴重なご意見として賜り、進めていきたい。

(2) 各分科会からの中間報告について

各分科会長から報告

(3) 各分科会協議

上田左岸地域の課題について

分科会ごとに分かれて意見交換

【第1分科会：自治・まちづくり】

調査・研究テーマについて協議

まちづくりに関する補助金等のアンケート調査の内容について検討

以下、委員からの主な意見

- ・回答者の立場で考えると、補助制度と実績に関する資料は簡単にまとめたほうがよいのではないか。
- ・アンケート項目は制度ごとではなく、全体に対する内容ではどうか。
- ・現制度に対する1問とその他の質問項目の一枚程度の分量がよいのではないか。

意見を出し合った結果、更に検討を続けることとなった。また、自治会長個人では回答できないとすれば意見集約に相応の時間がかかるため、アンケートの実施時期、配付及び回収方法等についても今後の検討課題となった。

【第2分科会：子育て・福祉・教育】

調査・研究テーマについて協議

以下、前回の信州子どもカフェプラットフォーム職員からの説明を受けての委員からの意見及び感想

- ・信州子どもカフェプラットフォームの存在を知らなかった。県から支援してもらうのは非常に心強くありがたい。
- ・理想としては中学校区で1か所ということなので、食事の提供のみならず様々なニーズに応える場所として、ぜひ設置してほしい。
- ・各地区で行うフードドライブをきっかけに、参加者同士がマッチングし、子ども食堂を運営する機会になればよい。
- ・子ども食堂は様々な主体、形で運営されているが、長野大学で現状をどう捉えているのか聞いてみたい。
- ・一人暮らしの高齢者や本当に悩みを抱える母親など、その場に行く勇気がなかなか出ないのも現状である。包括支援センターから紹介してもらえるとありがたい。
- ・地域によっては高齢化が進み、子どもの数が減少、道祖神でさえ、子どもが集まらない地域もある。親同士が集まる場も減っており、地域の子どもたちも子ども食堂の存在を知らないのではないか。
- ・歩いて行ける範囲に子ども食堂のような多世代が集まれる場所があれば理想的である。
- ・自分が高齢化したときに子どもと関われる場所があればよい。少しでも役に立ちたい。
- ・子ども食堂を開設したいと思う人はいると思うが、責任が重くなかなか手を上げる人がいないのが現状である。
- ・行政以外で、どこが中心で子ども食堂を運営するか、まちづくりの実動組織として、住民自治組織が相応しいと考えられる。
- ・住民自治組織の中の福祉部会、教育部会などが考えられるが、委員が仕事を持ちながら行うのは大変であり、継続を見通して行うことが大事なので、募集をするのはどうか。塩田地域のように生きがいとしてやってくれる人がいると一番ありがたい。実施場所は、やはり公民館が最適と思われる。
- ・住民自治組織以外では、ライオンズクラブ(長野大学生)、社協なども考えられる。
- ・公民館管轄地域の中で住民自治組織が分かれている場所もあり、利用する調理室等がどこにあるか、考えてみる必要がある。
- ・意見書の提出を考えた場合、従来の貧困対策としての「子ども食堂」ではなく、多世代間交流やこどもの居場所、学習支援という形で進めた方がよいのではないか。

【第3分科会：産業・地域振興】

調査・研究テーマについて協議

委員から提出された資料に基づき協議

以下主な意見

- ・人が集まる地域となるには、どういう方策が必要かを考えていく必要がある。

- ・国道 143 号、別所線沿線の施設、遊休地などを有効活用し、地元の特産物を生産、加工、消費し経済循環と雇用の促進を図ることで魅力度は向上するのではないか。それにより人が集まり公共交通機関を利用する人が増え、地域が活性化するのではないか。
- ・別所線の無人駅を有効活用することができれば活性化の可能性が広がる。
- ・地元商店の振興は地域活性化のキーワードである。遠方の大型商業施設へ出かけることが困難な買い物弱者には必要なものとする。また、地元の特産物を扱う魅力的な商店街となれば人が集う。
- ・地元直売所で自由に販売するには、何かルールがあるのか知りたい。
- ・官民協働、農・商・工連携の地産地消による地場ブランドを発掘し、地産地消の推進を図る。
- ・スーパーでの地元生産者の販売の仕組みについて知りたい。
- ・意見書提出へのスケジュールが示されたが、いつまでに方向性を出す必要があるか。
- ・農産物直売所で季節ごとに何を売っているのかデータがほしい。
- ・遊休地ではどのような団体が耕作を行っているのか情報がほしい。

4 その他

次回の開催予定

日時 6月15日(木) 午後1時30分から

場所 塩田公民館 大ホール

5 開会